

## 平成 24 年 2 月 21 日（朝刊）の大手新聞社の

### 記事に関する見解

平成 23 年 9 月 28 日に、当センター東病院で行われていた検査について問題があったのではないかという問題提起があり、同日に調査委員会を設置し、平成 24 年 2 月 20 日に結果を情報公開いたしました。

調査の結果、問題があったのは主に独法化以前の 05 年から 09 年の間のもので、検査の基準値の設定の仕方が不適切であった事例、検査部内で取り決めた検査結果の取り扱いが遵守されていなかった事例、問題が生じた時の報告が適切になされていなかった事例などが明らかになりました。幸いなことに、東病院での診断・治療に影響があったという例は、血液検査の再検査が行われた一例のみとの結果でした。さらに、この一例も、基準値の設定が不適切であっても再検査を行ったことは妥当であり、生命予後にも影響のなかったものと判定されました。

平成 24 年 2 月 21 日（朝刊）の S 紙の記事内容には、科学的に一部無理解の部分があると考えられ、読者に誤解を与える記載となっているので見解を示します。

① 腫瘍マーカーとして用いる  $\beta$ -HCG は、詳細には「hCG 総体（トータル hCG）」を測定する必要があり、東病院ではこれまで一貫してこの試薬を用いており、誤った試薬を用いることはありませんでした。

一方、hCG の一部である「遊離型  $\beta$ -hCG（フリー  $\beta$ ）」を測定する検査が存在します。当該記事を読むと、腫瘍マーカーとして「遊離型  $\beta$ -hCG（フリー  $\beta$ ）」を測定する試薬を用いるべきだと誤解しているからなのかもしれませんが、記事で「『 $\beta$  HCG』を検出する腫瘍マーカー検査で、必要な成分以外も検出する試薬を使用していた問題を『誤った試薬を使ったわけではない』と説明。」という記載があります。あたかも東病院で誤った試薬を用いてきたかのような印象を抱かせる表現になっており、誠に残念です。

② 同社の他の新聞記事では当然のように記載されておりますが、読者に正確な情報を伝えるためには、5W1H（Why、What、When、Who、Where、How）を明確に記載する必要があります。本記事では、問題がいつ生じていたのか明記されておらず、問題が過去のことであったのか、現在のことなのか不明確

であり、何か思惑があるのか不明ではありますが、読者に無用な不安を与えかねないものと感じます。

当センターでは、これまでも適切な検査試薬を用いていることを繰り返し説明してきております。調査委員会においてもそのことが改めて確認され、記者会見においても説明をしたところです。しかし、S社の記事は、平成23年9月28日の記事から「試薬の誤使用」という表現を繰り返しており、今回も残念ながら、十分にご理解を得ることができなかつたようです。

幸いにも人的被害は認められませんでした。今回の件で、多くの方に東病院の検査体制に不安を与えることになってしまったことをお詫び申し上げます。

現在は、検査は適切に実施されており、そのことを確認しております。今後、改善すべき点を明らかにしていき、国民の方々の信頼に応えていくことができるよう努めていくことをお約束いたします。

平成24年2月21日

国立がん研究センター理事長 嘉山 孝正